

# 【中学校・3年・国語・「君待つと一万葉・古今・新古今」】

## 育成を目指す資質・能力

C2（協働での意見整理）

C-イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。

## ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】 ホワイトボードソフト、表計算ソフト

・考えを交流する場面で付箋機能を活用し、個人の考えを可視化し整理することで、考えを深めることができる。  
また、指導者が生徒が活動にどのように関わっているかを把握し、指導や評価に生かすことができる。

## 学習の流れ

和歌の大意や表現の特徴などの解釈する際のポイントを確認する。

個人で和歌を解釈し、ふさわしい画像を検索する。

グループで、自他の考えを検討しながら、ふさわしい画像を選択する。

グループの考えを全体で共有し、自分の学習を振り返る。

## 事例の概要

本実践は、作品の言葉や表現を吟味しながら、作品に表れた思いや考えを捉えるために、作品世界を表す画像を選んで伝え合う活動を設定した事例である。

学習過程の以下の場面でICTを活用した。

- ①和歌を精査・解釈して、和歌に合う画像を選択する場面では、ホワイトボードソフトを用い、シートを作成した。
  - ②自分の解釈を他者に発表し交流する場面では、作成したシートを共有し、付箋機能を用い、お互いの考えを交流した。
  - ③授業の振り返りを記述する場面では、表計算ソフトを用いて振り返りを記述させ、指導者に提出した。
- ◎ICT端末を活用することで、加除修正がしやすく、生徒が試行錯誤しながら自分の考えをまとめることができた。
- ◎指導者が生徒の学習状況等を把握しやすく、生徒へのフィードバックや個別の支援等、指導の充実につなげることができた。

# 【中学校・3年・国語・「君待つと一万葉・古今・新古今」】

## 【事例におけるICT活用の場面②】

付箋を色分けし、個人の活動を把握

「西行法師は歩いていて、道の近くに清水の流れるきれいな柳の木陰があった。たくさん歩いたので、少し休憩しようと思ったが、柳と清水の織りなす景色が「あまりにも綺麗すぎる」と思ってつい長く休憩してしまった。また、陰があることから夏の日差し強い日は私は解釈したので、木陰で景色を見ながら涼んでいると思った。」

「西行法師は歩いていて、道の近くに清水の流れるきれいな柳の木陰があった。たくさん歩いたので、少し休憩しようと思ったが、柳と清水の織りなす景色が「あまりにも綺麗すぎる」と思ってつい長く休憩してしまった。また、陰があることから夏の日差し強い日は私は解釈したので、木陰で景色を見ながら涼んでいると思った。」

「西行法師は歩いていて、道の近くに清水の流れるきれいな柳の木陰があった。たくさん歩いたので、少し休憩しようと思ったが、柳と清水の織りなす景色が「あまりにも綺麗すぎる」と思ってつい長く休憩してしまった。また、陰があることから夏の日差し強い日は私は解釈したので、木陰で景色を見ながら涼んでいると思った。」

## 【事例におけるICT活用の場面③】

万葉集は、前回学んだように気持ちが一語に書かれていた。長歌のように、五七五じゃないじゃんって思ったのもありましたが、読んでると言いたいことは長くて、短くても係り結びで読み取ったりできるということが分かった。古今和歌集の小野小町恋の歌のように想像を掻き立てて余韻をもたせるものもある。どんどん想像が広がってまた、ストーリーができてきた。本文や現代語訳から離れすぎないように気をつけながら考えてみよう。

自由に記述できるので、生徒が自分の学習を振り返り、自分の学びを更新している様子が見える。  
また、指導者のフィードバックを記述する時間の短縮につながり、指導の充実につながる。

## ICT活用のポイント

- ①和歌を精査・解釈して、和歌に合う画像を選択する場面  
「読むこと」の学習において、読み取ったことや考えたことを文章でまとめる場面を設定することがあるが、手書きによる記述を負担に感じる生徒も少なくない。  
ICT端末を活用することで、加除修正がしやすく、試行錯誤しながら自分の考えをまとめることができる。  
また、自分の考えを発表する際の補助資料としても活用し、発表を聞く生徒の理解に役立てることができた。
- ②自分の解釈を他者に発表し交流する場面  
付箋機能を用いることで、自他の考えを可視化でき、容易に共有しやすいので、多くの人の考え、気づきや疑問を基に考えを再検討したり、深めたりすることができる。  
また、付箋を個人で色分けしておくことで、一人一人がどのように交流活動に関わっているかを把握でき、指導や評価に生かすことができる。
- ③授業の振り返りを記述する場面  
ワークシートやノートに記述する場合は、回収や返却に時間がかかったり、記述量も限られてしまったりするが、ICT端末を活用することで、指導者が生徒の学習状況を把握しやすく指導や評価に生かしたり、生徒が自分の学習を振り返り、記述を追加したりすることが可能となる。

## ICT活用事例 C2（協働での意見整理）

中学校3年・国語科

作品世界を表す画像を選ぼう～作品の言葉を吟味し作品世界を捉える～

使用機器：ICT端末 使用したソフト：ホワイトボードソフト、表計算ソフト

### 〈ICT活用のポイント〉

- ①自分の考えをまとめる際にホワイトボードソフトを用いることで、加除修正したい場合、すぐに修正することができるため、試行錯誤しながら自分の考えをまとめることができる。
- ②自分の考えを交流する際に付箋機能を用い、個人ごとに付箋を色分けすることで、一人一人の交流活動への関わりが把握でき、指導や評価に生かすことができる。
- ③学習の振り返りを記述する際にICT端末を用いることで、生徒や指導者の負担を軽減することができる。

#### 1 単元の目標

- (1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。  
[知識及び技能] (3)イ
- (2) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。  
[思考力、判断力、表現力等] C(1)イ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

#### 2 教材名 君待つと 一万葉・古今・新古今 「国語3」（光村図書）

#### 3 指導の内容と言語活動、教材のかかわり

##### (1) 言語活動設定の意図

本実践では、作品の言葉や表現を吟味しながら、作品に表れた思いや考えを捉えるために、作品世界を表す画像を選んで伝え合う活動を設定した。

目的意識 自分の考えをよりよく伝えるために

相手意識 級友に対して

場面状況意識 和歌に相応しい画像について、どのような記述に基づいて選んだのか、根拠を説明し合う場面で

方法意識 ふさわしい画像を仲間と再度、検討・精査することを通して

評価意識 和歌の表現や表現技法に着目して、世界観を捉えることができたか

##### (2) 教材の特徴

万葉・古今・新古今の三大和歌集が扱われ、それぞれの歌集の作風を比較しながら、味わうことができるよう、配列されている。万葉集からは牧歌的な作風の作品、古今和歌集からは技巧の工夫がみられるような作品、新古今和歌集からは技巧の工夫がさらに精緻になっているものが取り上げられている。三十一音の音律の中に、それぞれの歌のモチーフが象徴される言葉の選択や技巧が施

されており、和歌がどのように進化していったのかにも着目させたい。

本実践では、言葉一つひとつがもつイメージや多義性に気付きながら、画像を検索する言語活動を設定したが、ここで大切にしたいのは「どの言葉に着目して解釈したのか、またどのような語句で検索をしていき、画像を決めていったか」ということである。検索の過程で、和歌の記述から自分が感じたことや考えたことを根拠にしなが、選択していくこと、そして、お互いの交流を通して、再度検討することでより深い読解へと結び付けていくことをねらいとする。

※本単元で取り上げた和歌

○心あてに 折らばや折らむ 初霜の 置きまどはせる 白菊の花 <small>（あて推量で折るなら折ろうか。初霜の白さで見分けられなくなった白菊の花を。）</small> <small>（秋）凡河内躬恒</small>	○なげけとて 月やは物を 思はする かこち顔なる わが涙かな <small>（月が物思いをさせるのだろうか。（いや、恋のせいなのに）月のせいであるかのようにこぼれ落ちる涙よ。）</small> <small>（恋）西行法師</small>	○天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ をとめの姿 しばしとどめむ <small>（大空を吹く風よ、雲の中の通り道を吹き閉じておくれ。天女のような舞姫の姿を引きとどめておきたいから。）</small> <small>（雑歌）僧正遍昭</small>	○わびぬれば 今はたおなじ 難波なる みをつくしても あはむとぞ思う <small>（苦しみ悩むからには、今はもう身を滅ぼしたのと同じこと。難波の漂標という言葉のように、身を尽くしても（滅ぼしても）あなたに会おうと思う。）</small> <small>（恋）元良親王</small>	○道の辺に 清水流るる 柳かげ しばしとてこそ 立ちどまりつれ <small>（道のほとりに清水が流れている。柳の木陰よ。ほんのしばらくとと思って、立ち止まったのであったが。）</small> <small>（夏）西行法師</small>	○君待つと 我が恋ひ居れば 我が屋戸の すだれ動かし 秋の風吹く <small>（あなたのおいでを待って私が恋しく思っておりますと、我が家の戸口のすだれを動かして、秋の風が吹いております。）</small> <small>額田王</small>
--	---	---	--	---	--

※本単元では、画像はインターネット上にあるフリー素材を使用した。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 ((3)イ)	①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 (C(1)イ)	①粘り強く作品を批判的に読みながら、今までの学習を生かして作品にふさわしい画像を選ぼうとしている。

5 指導と評価の計画（C「読むこと」4時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<p>○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p>○教科書の和歌を読み、和歌の大意と合わせて、内容を理解する。</p> <p>○係り結びや掛詞などの技法を学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万葉・古今・新古今の成立時代の異なる歌集を読み味わい、より具体的なイメージを膨らませるために、画像を選ぶ学習につなげていくことを知らせる。</li> <li>・それぞれの和歌に使われている、古典ならではの言葉遣いや、表現技法について解説し、その効果について考えさせる。</li> <li>・現代語訳や語注と合わせて読み、三十一音に込められた言葉の多義的な意味合いを捉えようとするよう促す。</li> </ul>	<p>[知識・技能①] ノート・ワークシート・小テスト</p> <p>・ここでは、それぞれの歌集にみられる表現の特色や、使用されている表現技法を理解しているか確認する。</p>
2	<p>○グループごとに課題として与えられた和歌にふさわしいと思う画像を個々で検索する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの言葉に注目して、どのような言葉で検索していくか、合わせたい画像のイメージをなるべく具体的にもたせる。</li> <li>・あらかじめ用意しておいた画像数枚を示し、読み深めながらその和歌のもつ世界をより具体的に想像させる。</li> <li>・古語や地名、文化等の調べ学習では図書室の資料やインターネットで行う。</li> <li>・和歌からどのような情景やストーリーを想像したか、ホワイトボードソフトに記述させる。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現①] ノート・ワークシート</p> <p>・ここでは表現に基づいて和歌を解釈し、どのような画像を合わせたいか、自分なりのイメージをもっているか確認する。</p>
3	<p>○グループでそれぞれが選んだ画像を、根拠を述べながら示し、交流をする。</p> <p>○グループの中で画像を1～2枚に絞る。もしくは再度、検索する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードソフトを使い、小グループ内で交流をする。画像の貼り付けや、付箋でメモを貼り付けながら整理させる。</li> <li>・どのような検討の末、この画像にしたかということを説明させる。</li> </ul>	<p>[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・振り返りシート</p> <p>・ここでは、自他の作品の解釈を検討しながら、和歌の主題を踏まえて、ふさわしいと思う画像を選ぼうとしているかを確認する。</p>
4	<p>○グループごとに、選んだ画像とその理由を発表し合い、交流をする。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を踏まえ、和歌に込められた思いや情感と具体的なイメージをどのように結び付けて考えたかを記述させる。</li> <li>・古典や短歌の読解に今後どのようなことが生かせそうか、考えさせる。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現①] ノート・ワークシート 振り返りシート</p> <p>・ここでは、交流を踏まえ、和歌に込められた思いや情感を読み、ふさわしい画像を選んでいるかを確認する。</p>

6 ICTの効果的な活用について

本実践では、①和歌を精査・解釈して、和歌に合う画像を選択する場面、②自分の解釈を他者に発表し交流する場面、③授業の振り返りを記述する場面でICTを活用した。

①の場面では、ホワイトボードソフトを用い、自分がどのように和歌を解釈したのか、またその解釈から検索した画像を貼り付けてシートを作成した。ICT端末を活用することで、加除修正がしや

すく、生徒が試行錯誤しながら自分の考えをまとめる姿が見られた。また、作成したシートは、自分の考えを発表する際の補助資料としても活用し、発表を聞く生徒の理解に役立っていた。

②の場面では、作成したシートを共有し、付箋機能を用い、お互いの考えを交流した。自他の考えを可視化できるので、それぞれの考えをつなげたり、気づきや疑問を基に内容を深めたりしていた。また、付箋を個人で色分けしておくことで、一人一人がどのように交流活動に関わっているかを把握でき、指導や評価に生かすことができた。

③の場面では、表計算ソフトを用いて振り返りを記述させ、指導者に提出するようにした。ワークシートやノートに記述する場合は、回収や返却に時間がかかったり、記述量も限られてしまったりするが、ICT端末を活用することで、指導者が生徒の学習状況を把握して指導や評価に生かしたり、生徒が自分の学習を振り返り、記述を追加したりすることが可能となる。

また、生徒が何を記述してもよいということではなく、指導目標や評価計画に応じて、指導者が観点を明確にしておくことが必要となる。

## 7 評価の実際

[知識・技能] の評価について、第1時に「それぞれの歌集にみられる表現の特色や、使用されている表現技法を理解している」姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、ノートやワークシートへの記述等を基に評価した。例えば、「係り結びや比喻などの表現技法に着目することで、和歌に込められた思いを読み取ることができる」のような表現技法に関する記述等があれば、「おおむね満足できる」と判断した。

また、ノートや振り返りシートの記述等から、古語辞典を使って語句調べを行ったり、当時の文化などを調べたりと学習の広がりを捉えられる場合は、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

## 〈生徒が作成したシート例〉

考えた理由が、明確でわかりやすかった。

途中まで出てくる解説だったので最後のほうの考えは思い浮かばなかった。参考にしたい。

振り返りと自分の考えを結びつけていて、面白い表現の仕方だ。想像もできて丁寧でいいね



道はどりに清水が流れている。柳の木陰も、ほんのしばらくと憩って、立ち止まったのであったが。

道の辺に 清水流るる 柳かげ しばしとてこぞ立ちどまりけ

西行法師

西行法師が歩いていると、道の近くに清水の流れるきれいな柳の木陰があった。たくさん歩いたので、少し休憩しようと思ったが、柳と清水の織りなす景色が「あまりにも綺麗すぎる」と思ってつい長く休憩してしまっただけ。また、陰があることから夏の日差しの強い日だと私は解釈したので、木陰で景色を見ながら涼んでいると思った。

## 〈振り返りシートの記述例〉

ステップ1	2	和歌の歴史や基礎知識、三大歌集について理解しよう。	理解したこと・感想 理解するために努力したこと・感想	すごい昔から様々な技法を使って言葉が楽しまれていたと思うとすごいなと思った。今のダジャレみたいな掛詞があったり、枕詞や序詞という表現技法が生まれていたのを知っていくのが本当に面白かった。ストリートなものから工夫のあるものまで変わっていく流れを知ってみたいと思った。	楽しみながら読もう。
ステップ2	3	教科書の和歌を大量を手がかりに読み進めよう。(音読の工夫)	意識したこと・次の時間頑張ろうと思うこと・感想	万葉集は、昔習字のように気持ちよく書いていた。長歌のように、五七五じゃないやつで思ったのもありましたが、読んでみると面白いことは多く、短くても係り結びで読み取れると驚かされた。今知覚集の小野小町のお歌のように想像を掻き立てて余韻をもたせるものもある。どんどん想像が広がってきた。ストリートができると思った。ここから追加(10月25日)今日やった「新しき」の多分みな違うストーリーになると思うので一人ひとりの読み取り方を楽しんだり、新しい見方ができたらいいなと思った。	ストーリー、作ってみよう。本文や現代語訳から難しそうな言葉や表現を見つけながら考えてみよう。
ステップ3	4	題材の和歌から想像を膨らませよう。	意識したこと・次の時間頑張ろうと思うこと・感想	西行法師が歩いていると、きれいな景色の柳の木陰があっただけ休もうと思っていたのにあまりにも綺麗すぎる、ついつい長居してしまっただけ。という、ストリートがあると思った。後半にある、係り結びで気持ちの高揚があるし、大意から読み取れないので「ついつい」というような気持ちかなと思った。想像を付け足して更に想像が膨らんだと思う。和歌を読んでストーリーを解説されたことはあつたけど、自分なりの解釈で深く読み込んでみるのは多分初めてだったので、これから読んでいく上での楽しみが増えたと思う。イメージを持って読むのが大切だと思った。	面白そう、ぜひらしい
	5	交流をして、さらに読み進めよう。	意識したこと・苦労したこと・感想	朝で話し合うと同じストーリーだけれどみんな見ているワードが違うと面白かった。見ているワードが違うと連想する単語も違ってくるので、ストーリーがどんどん増えていった。私達の頃では、反対の意見は出なかったのですが、他の頃では同じ和歌なのに全く違う意見が出ていて、見方による読み取り方は、面白いと思った。	記述から想像する楽しさが体験できましたね。
振り返り		学習全体を振り返ろう。	今後の学習で役に立ちそうなこと・今回の学習でできたこと・発見など。	4回の「なげくて」というのが私達の頃で読んだのと同じ作者の西行法師で聞いた。私達の頃とは、自然のことを歌っていたのに、4回では恋について歌っていたのでギャップがすごかった。	引き出しの多さが名人の証かも見れませんがね。

振り返り	先生から。
もともと古文が好きなので仮名序の意味がけっこう深い感じで面白かった。係り結びや対比、対句などの今まで習ってきた表現技法がたくさん使われていると思った。和歌には、しみじみさせたり、慰めたり、人の仲を保ったりどんな人にも効果があるものだということが仮名序には、書かれていると思った。古語辞典を使ってもっと古文の言葉を覚えてみたいと思った。	詳しくは高校で学習できますよ。
すごい昔から様々な技法を使って言葉が楽しまれていたと思うとすごいなと思った。今のダジャレみたいな掛詞があったり、枕詞や序詞という表現技法が生まれていたのを知っていくのが本当に面白かった。ストリートなものから工夫のあるものまで変わっていく流れを知ってみたいと思った。	楽しみながら読もう。

〔思考・判断・表現〕の評価について、第2時に「表現に基づいて和歌を解釈し、どのような画像を  
 合わせたいか、自分なりのイメージ  
 をもっている」姿を、また第4時に

「交流を踏まえ、和歌に込められた思  
 いや情感を読み、ふさわしい画像を選  
 んでいる」姿を「おおむね満足でき  
 る」状況(B)と捉え、総合的に評価  
 した。

右の生徒は、ノートやシートの記  
 述から「清水」、「柳かげ」という言  
 葉からさわやかできれいなイメージ  
 を捉え、また、係り結びが使われて  
 いる「しばしとてこそ立ち止まりつ  
 れ」という表現に着目し、その理由  
 を考えていた。教科書の注釈には「あ  
 まりに涼しいので」とあるが、それ  
 だけでなく、「柳と清水の織りなす景  
 色」の美しさにより、時のたつのを  
 忘れてしまったと結論づけ、自分の  
 解釈を深めていたので、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

〔主体的に学習に取り組む態度〕の評価について、第3時に「和歌の主題を踏まえて、よりふさわし  
 いと思われる画像を検討しようとしている」姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、交流の様子  
 を観察したり、交流する際の付箋を色分けしたりして、生徒がどのように交流に関わっているかを評価  
 した。また、さらに、振り返りシートに、今後の読むことの学習にどのようなことを生かせるかを記述  
 させ、総合的に評価した。

右の生徒の記述では、自分の学習  
 を振り返り、言葉や表現を吟味しな  
 がら作者や筆者の意図を考えながら  
 解釈をしていくことで、作品を楽し  
 んでいきたいと具体的に記述してお  
 り、活用の意識が確認できるので、  
 「十分満足できる」状況(A)と判断  
 した。

〈生徒が作成したシート〉

考えた理由  
が、明確で  
わかりやす  
かった。

道中まで読んで  
いる時と比べて  
最後の方の考  
えは思いつな  
かった。参考に  
したい。

係り結びと自分  
の考えを結びつ  
けていて、面白  
い表現の仕方だ  
と印象を受けて  
丁寧でいいね。



〔大意〕道のほとりに清水が流れている。柳の木陰が、ほんのしばらくと思つて、立ち止まったのであつた。

西行法師

西行法師が歩いていると、道の近くに清水の流れるきれいな柳の木陰があつた。たくさん歩いたので、少し休憩しようと思つたが、柳と清水の織りなす景色が「あまりにも綺麗すぎる」と思つてつい長く休憩してしまつた。また、陰があることから夏の日差しの強い日だと私は解釈したので、木陰で景色を見ながら涼んでいると思つた。

西行法師が歩いていると、きれいな景色の柳の木陰があつて少しだけ休もうと思つていたのにあまりにも綺麗すぎて、ついつい長居してしまつた。という、ストーリーがあると思つた。後半にある、係り結びで気持ちの高揚があるし、大意からもはっきり言い切っていないので「ついつい」というような気持ちかなと思つた。画像を付け足して更に想像が膨らんだと思う。和歌を読んでストーリーを解説されたことはあつたけど、自分なりの解釈で深く読み込んだのは多分初めてだつたと思うので、これから読んでいく上での楽しみが増えたと思う。イメージを持つて読むことが大切だと思つた。

〈生徒の振り返りシート〉

同じ班のみんなの考え方がそれぞればらばらで一つの詩なのにいくつもの考えができる二ホンのウタにすごく驚いた。小説や漫画、その他のように1つの言葉(シーン)に複数の意味がかかっているとこがあつて面白い。これからも一文の筆者の意図を汲み取るのを習慣にしてみると、より本も詩も楽しめるのかもしれない、と思つた。